

4

## 5歳児の実践事例

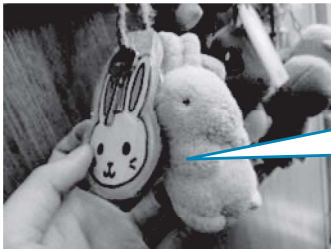




## 4 5歳児の実践事例

事例1 「ウサギの世話をしよう」	4月	・・・	46
事例2 「こいのぼり だいさくせん！！」	4月	・・・	50
事例3 「すごい！どうしてだろう！もう1回やってみよう！」	8月	・・・	54
事例4 「みんなでジャングルをつくろう」	9月	・・・	58
事例5 「運動遊びにトライ！チャレンジ！」	9月	・・・	62
事例6 「玉集めゲーム！チームでがんばろう！」	10月	・・・	66
事例7 「『3びきの〇〇』の紙芝居を作ろう！」	11月	・・・	70
事例8 「もうすぐ1年生 ワクワク！ドキドキ！」	2月	・・・	74
【コラム】 幼児教育施設における文字環境		・・・	78

# 事例1

5歳児	4月中旬	ウサギの世話をしよう ～進級の喜びに支えられて当番活動を進める～
活動選択の理由	<p>4月の進級時は、自分たちがウサギの世話を全面的に任せられたことに誇らしい気持ちをもって張り切っている姿が見られた。まずはウサギに興味がある幼児を中心に世話をしていくようにした。</p> <p>幼児が身近な動物に思いやりの気持ちをもって接してほしいという願いをもって、興味をもって世話をしている幼児の姿を紹介しながら、クラス全体で当番活動として取り組めるようにした。</p>	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 以前に5歳児から教えてもらったことを思い出したり、新たに考えたりしながら飼育物に愛着をもち、当番活動(ウサギの世話)に進んで取り組もうとする。</li> </ul>	
<p>【幼保小の共通の視点：主主体的な活動 協同(協働)的な活動 言語活動】</p> <p>主・ウサギの世話に興味をもち、役割意識に支えられながら、当番活動を行う。</p> <p>協・同じグループの友達と世話の手順にそったり、役割を分担したりして一緒に行う。</p> <p>言・グループで世話の仕方を話し合い、ウサギについて感想を伝えたり友達の質問に答えたりする。</p>		

活動の流れ・幼児の姿	○保育者の指導・援助    ★環境の構成
<p>ウサギの世話をする。</p> <p>・登園後、身支度を済ませた当番の幼児が職員室に小屋の鍵と野菜を受け取りに行く。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>ウサギ小屋のカギ</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>失礼します。さくら(ウサギ)の小屋の鍵と野菜を取りに来ました。</p> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;">  </div> <p>・ウサギの世話をする。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">＜世話の内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウサギを小屋の外に出す</li> <li>・ほうきとちりとりを使い、糞を集める</li> <li>・水を取り替える</li> <li>・野菜やラビットフードを与える</li> <li>・ウサギを小屋に戻す</li> <li>・職員室に鍵を返す</li> </ul> </div>	<p style="text-align: center;">○保育者の指導・援助    ★環境の構成</p> <p>★職員室のドアの近くの幼児が取りやすい高さのところに目印としてウサギのキーホルダーを付けた鍵を用意しておく。鍵を扱えるのは年長児という特別なものとして位置付ける。</p> <p>○「さくらちゃん(ウサギの名前)お腹空いてないかな。」「お部屋を掃除してもらえるのを待ってるね。」等、ウサギの気持ちになって考えられるような言葉で表し、当番の幼児が世話の必要性に気付けるようにする。</p> <p>○職員室に入る際は、挨拶や目的を伝えたりするように事前に説明する(職員室にいる保育者は幼児に近付き、話を丁寧に聞き、内容に沿って援助をする)。</p> <p>○動物が苦手な幼児や、興味のない幼児には、保育者も小屋の中に入って一緒に掃除をしたり、「キャベツを食べる音が聞こえるね。」「お部屋がきれいになってうれしそう。」等、言葉に出したりして、興味をもてるようにする。</p> <p>★卒園児が作ったウサギの世話の仕方の絵を見ながら、世話を進めていくことに興味をもてるようにする。</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>

- ・自分から進んで掃除やエサやりをする幼児、「○○君、水換えて。」と役割を考えて友達に伝える幼児、小屋の外に出したウサギをなでる幼児、友達の様子を見てまねてみようとする幼児等の姿がある。
- ・一方で、動物が苦手な幼児や世話をすることに気が進まない幼児の姿もある。
- ・糞の様子やエサの食べ具合を見て、気が付いたことをつぶやく幼児がいる。



- ・職員室へ鍵を返し、手を消毒する。

○「今日はキャベツをよく食べているね。」「うんちがいっぱいだ。」「僕が持ってきたニンジン、食べてくれた！」等、一人一人の気付きを受け止め、言葉を拾いながら「ニンジン食べてくれてよかったね。」「明日はどうかね。」と期待がもてるような言葉を掛ける。

○世話が終わったことを確認し「おうちの中がきれいになって、お腹もいっぱいになってうれしいだろうね。」と、ウサギの思いを言葉に表し、当番の幼児の取組を価値付ける。

○集合時に、世話をした幼児の取組を伝えたり、世話をした幼児からやってみてどうだったか等の感想を引き出したりする。また他の幼児から質問を出してもらってクラスでウサギの世話の仕方について分かり合えるようにして興味・関心を高め、ウサギの存在や思いを共有する。

- ※ 動物アレルギーの幼児がいる場合には、できる範囲で(水を入れ替える、ウサギの様子を見守る等)参加できるように言葉を掛ける。家庭とも連絡を取り合って理解を得た上で、安全に留意しながら、幼児にとって大切な経験が得られるようにする。
- ※ 休み明けは汚れがひどいことが予想されるので、登園後すぐに取り掛かれるようにする。特に、汚れがひどいところは保育者が担うようにする。

## その後の活動

### ～ウサギの目がおかしい～

- ・夏休み中、当番の幼児がウサギの目から白い涙が流れていることに気付き保育者に伝えてきた。保育者が動物病院へ連れてくと、「結膜炎」と診断され、一時期室内で生活することになる。幼児に、「1日3回の点眼が必要になり接触は避けた方がよい。」と言われたことや、ウサギが高齢であることを伝えると、心配する姿があった。玄関の近くに飼育ケースを置いたことで、帰りがけに飼育ケースをのぞいたり、エサを食べている様子を観察したりするなど、体調を気に掛けていた。



### ～震えているよ、寒いのかな？～

- ・9月、台風が過ぎ去った翌日、小屋の中を見るとウサギが震えていた。どのような環境がよいのか、幼児たちと考え合った。夏休みと同様に涼しい玄関の近くに置くことに決める。降園時に乳児や他の学年が通ることで興味をもって関わる姿があった。

- 生 活：進級の喜びを味わい、自分でできることを進んでしようとする。  
人とのかかわり：友達と遊びながら自分の思いを言葉で伝えたり、相手の思いを感じ取ったりする。  
みんなで遊ぶ楽しさを味わいながら、クラスとしてのつながりを感じる。  
学 び：新しい環境の中で、自分が興味・関心をもったことに進んで取り組む。

## 1 身近な動植物に触れながら生き物に対する親しみや愛情を深めるために

### みんなで動植物の存在を知って、親しみを共有するための工夫

- ・ 保育者も一緒に世話をすることで、幼児のつぶやきや気付きを受け止め、その情報をクラスで集合したときなどに全体で共有したり、さらに、幼児が自分の言葉で伝え合ったりしながら、動植物への親しみをもてるようにする。
- ・ 幼児が自身の生活環境と重ね合わせながら、園の飼育物のことを考えられるように働き掛ける。幼児なりに必要感を感じて進んで世話活動に取り組めるようにする。
- ・ 幼児の世話の様子を見守り、掃除、エサやりなどの取組に対して、小動物側からの言葉(部屋がきれいになってうれしい。お腹がいっぱいになった等)を表して、幼児の取組を価値付ける。
- ・ 小動物の飼育では、世話をしている動物の健康な状態を保てるように、日常的に注意を向けていくことが求められる。食欲、動き方、排泄物等を確認しながら、具合が悪い様子が見られた時は、幼児にも説明して小動物の健康について考え合う場をもつ。専門医の診察を受けられるようにする。近隣の動物病院との連携を図っておく。



## 2 友達と一緒に協力して世話をしていくための工夫

### 友達と一緒に進めていくための工夫

- ・ 「〇〇君が水替えてくれたんだね。」「ほうきとちりどりの使い方が上手だね。」と個々の幼児の様子を伝え、幼児同士が互いの取組に関心を示していけるようにする。
- ・ 幼児が周りの様子を見て、終わっていないところを手伝おうとする姿を受け止め、その取組を取り上げる。
- ・ 世話が終わった当番の幼児たちに「みんなでできたね。」「ウサギも喜んでるね。」と言葉を掛け、幼児が個々の動きをすることで、一つのことのできたことを認め「協力すること」の意味を体験的に学べるようにする。
- ・ 卒園児が作ったウサギの世話の仕方が描かれた絵を小屋の中に貼ることで、順番に沿って世話を進めやすくし、興味をもって取り組めるようにする。



## 本事例と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

① 健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウサギの世話の仕方や手順を分かろうとする。</li> <li>ウサギがかわいいという気持ちをもつ。</li> </ul>
② 自立心	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の役割が分かり、最後まで行おうとする。</li> </ul>
③ 協同性	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の役割が分かり、友達と一緒に協力して進める。</li> <li>世話をする中で互いの役割を分かり合って取り組む。</li> </ul>
④ 道徳性・規範意識の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員室の先生に挨拶をし、目的を伝える。</li> <li>小屋の鍵を大切に扱う。</li> </ul>
⑤ 社会生活との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>当番活動を分担して進める。</li> <li>飼育物のために、自分の行動が役に立つ喜びを感じる。</li> </ul>
⑥ 思考力の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> <li>世話の手順を考えながら行う。</li> <li>どうすればウサギを抱っこできるのか試行錯誤する。</li> </ul>
⑦ 自然との関わり・生命尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>小動物に触れ、「生きている」ことを体感する。</li> <li>ウサギの気持ちを想像して、思いやりの心をもって接する。</li> </ul>
⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>飼育物のエサの減る量を知る。</li> <li>その日のうちに食べきれないエサの量を考える。</li> </ul>
⑨ 言葉による伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの友達に言葉を掛け、当番を始める。</li> <li>「〇〇お願いね。」「まだ〇〇が残ってるよ。」と言葉を掛けながら進める。</li> </ul>
⑩ 豊かな感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が与えたエサを、ウサギが食べている姿を見て喜ぶ。</li> <li>「かわいいね。」等、ウサギに話し掛けながらなでたり直接エサを与えたりする。</li> </ul>

### 小学校への接続を意識した保育で大切にしていること

#### 〈生活〉

- 職員室に用事があるときは、挨拶をして、内容等を分かりやすく伝えていけるように指導する。
- 世話の仕方が分かり、最後までやり遂げようとする姿を認めていく。
- 自分たちにできることや必要なことを考え、やってみようとする思いを引き出す。

#### 〈人とのかかわり〉




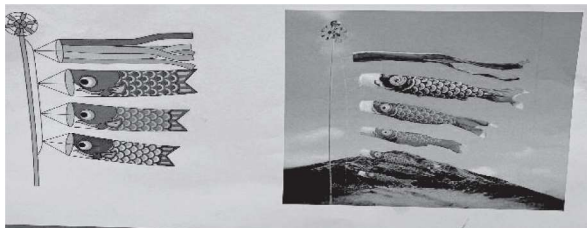
- 友達と一緒にめあてをもって取り組む気持ちを励ましていく。
- 相手の動きを感じながら、自分のすることを考えて取り組んでいる様子を認め「協力して行う」ことを体験として積み重ねていけるようにする。

#### 〈学 び〉

- ウサギも自分たちと同じように暮らしていること、誰かが世話をしあげないと生活できないことに気づき、大切にしようとする気持ちを育てる。
- 身近な動植物だけでなく、相手の立場になって考えることの大切さに気付かせる。
- 言葉を話さない動物が何を好むのか、どうして欲しいのか考えた経験から、相手が喜ぶことや嫌がることを考える。

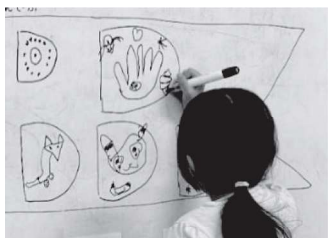
## 事例2

5歳児	4月下旬	こいのぼり だいさくせん！！ ～みんなで協力して大きなこいのぼりを作る～
活動選択の理由	進級した喜びを感じ、何事にも意欲的に行動している姿が多く見られる。「こいのぼり」の共同製作を通して自分の思いを伝えたり、友達の話の聞いたりして、協力して大きな作品を作りたいと考えた。また、こいのぼりの製作で、いろいろな素材に触れる経験を得られるようにしたいと考えた。	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の話の聞き、相手の思いに気付いたり受け入れたりする中で、協力して大きなこいのぼりを作り、クラスのつながりを感じる。</li> <li>・ こいのぼり作りの中で、いろいろな素材に触れて、その使い方を試したり工夫したりして、自分なりの表現を楽しむ。</li> </ul>	
<p>【幼保小の共通の視点：主主体的な活動 協同(協働)的な活動 言語活動】</p> <p>主・クラス全体で大きなこいのぼりを作ることに興味をもって、製作材料を工夫して取り組む。</p> <p>協・グループ内の友達と材料を共有したり、友達の取組を見たりしながら一緒にうろこを作る。</p> <p>言・自分の考えやイメージを言葉だけでなく、描いて伝えるなどして、伝わるうれしさを感じる。</p>		

活動の流れ・幼児の姿	○保育者の指導・援助 ★環境の構成
<p>【前日までの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ こいのぼりの意味を聞き、実際の写真を見て自分たちはどのようなこいのぼりにしたいかを話し合う。黒、赤、青、黄、顔は白にすることになり5色のカラービニールをつなぎ大きなこいのぼりの体を製作する。</li> </ul>  <p>うろこの模様について話し合う(1日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○クラスで集まる。</li> <li>・ グループ内でペアの友達とうろこの模様や飾りについて話し合いをする。</li> <li>・ イメージがわき、ペアの幼児に一生懸命伝えようとする幼児がいる。</li> </ul>   <ul style="list-style-type: none"> <li>○ペアごとに発表する。</li> <li>・ 言葉でうろこの模様を発表する。</li> </ul>	<p>○大きなこいのぼりを作ることは、年長組ならではの取組であることを伝え、幼児の製作への意欲を高める。</p> <p>★実際に飾られているこいのぼりの写真を用意して、みんなで見る。</p>  <p>★うろこなど飾りのイメージがわくように、クラスで作るこいのぼりの本体を壁面に掲示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○話し合いの様子を見ながら、具体的な話をしているペアのアイデアを取り上げ、全体に伝えてもらうことで、他児への刺激とする。</li> <li>○話がまとまらない時は、担任も話に加わり互いの意見を十分に出し合い共通点を見付ける。</li> <li>○ペアで話した内容を伝えてもらうときは、二人の意見がまとまったことを認め、クラスで拍手して、伝えることの楽しさを共有する。</li> <li>○幼児から出たアイデアをホワイトボードに絵を描いて確認する。幼児によっては自分で描いて伝える方法を用いるなどできるようにする。</li> </ul>



・言葉だけでなく、ホワイトボードに絵を描く。



・発表に対して「いいね～」「わかるわかる」などの言葉を掛ける幼児がいる。

### こいのぼりのうろこを製作する(2日目)

○ホールに集まる。



- ・絵の具の色を選んだり、描く場所を考えたりして、筆や指で色を付ける。
- ・うろこがなくなってくると色を選び、うろこの形に切る。
- ・うろこを貼り終えた幼児は、絵の具容器を洗ったり、汚れた床を拭いたりする。

○でき上がったこいのぼりを見る。



○うろこの模様と身近な材料や素材、用具と結び付けながらイメージが共有できるようにする。

★初めて使う材料、用具については、実際のもを提示しながら、使うことへの興味を高める。

○友達のアイディアを聞いて、取り組みたい、と考えた幼児には、やってみるように働き掛ける。

### 【2日目】

★ホールの中央にカラービニール製の大きなこいのぼりを天井から吊るしておく(幼児がうろこを付けやすい高さ)。

★希望したもの以外にも予想される素材や本体に張るための材料を準備しておく。

《色画用紙、写し紙、カラーテープ、絵具(シート・筆・容器)、色鉛筆、マジック、はさみ等》

★コーナーは、幼児と一緒に設定する。

○うろこの乾き具合を確かめるように促し、その方法を一緒に試す。

★床拭き用雑巾を流しに出しておく。

○自ら片付けを始めた幼児の姿を認め、その姿を全体に知らせる。

○こいのぼりの全体が見えるように、距離をとって見ながら、みんなで喜び合ったり、感想を伝え合ったりする。

### その後の活動

- ・クラスのみんで作ったこいのぼりに愛着があり、しばらくは保育室に飾ることになる。
- ・園全体の「こどもの日の集会」では、他の年齢の幼児の個人作品のこいのぼりを披露する中で、クラスで協力して作った一番大きなこいのぼりを誇らしげに発表した。
- ・集会後、中2階のベランダから大きなこいのぼりを吊り下げた。うれしそうに見上げながら、自分で製作したうろこを探し、見付けると友達や保育者に知らせる姿が見られた。
- ・ペアでの活動は引き続き意識して行い、自分の思いを伝えたり、友達の話の聞いたりして、互いの意見を認め合う経験を重ねている。



## 5歳児カリキュラムⅠ期 4月～5月

- 生 活： 進級の喜びを味わい、自分でできることを進んでしようとする。
- 人とのかかわり： 友達と遊びながら自分の思いを言葉で伝えたり、相手の思いを感じ取ったりする。  
みんなで遊ぶ楽しさを味わいながら、クラスとしてのつながりを感じる。
- 学 び： 新しい環境の中で、自分が興味・関心をもったことに進んで取り組む。

### 1 幼児同士で話し合い、考えをまとめたり、伝えたりするために

#### 言葉を交わし合ったり、全体に伝えたりする楽しさを感じられるための工夫

- ・ 幼児同士が互いの考えを表したり、聞いたりしやすくするために、2人組のペアになって話し合えるように人数に配慮する。
- ・ 日常的にいろいろな友達とペアで言葉を交わし合う機会をもつようにする。好きな食べ物、遊びなど簡単な話題を投げ掛け、言葉を交わし合う楽しさを経験できるようにする。
- ・ 保育者は、幼児同士が相互に「話す」「聞く」が行われているかを見守り、ペアによっては進行役を任せて考えを出し合えるようにする。
- ・ ペアの話合いが進み、一つの方向にまとまりそうな場合は、話合いの成果としてその結論を大いに認め、クラス全体に伝える場を作るようにして、他のペアの刺激にする。
- ・ 全体への報告は言葉だけでなく、絵で表すなどするようにボードや筆記用具を用いるようにして、友達の報告を聞くことへの興味をもてるようにする。
- ・ 友達の報告に対して、みんなで共感したり、新たな考えを引き出したりする雰囲気を高めて、話し合えたことを価値付ける。



### 2 個々の取組がクラス全体の作品に仕上がる達成感を体験するために

#### 自分なりの表現を楽しみ、豊かな材料経験となる工夫

- ・ 描画材料、接着剤等、クラスでの先行経験を思い出しながら、こいのぼりのうろこの模様に適した材料、用具を幼児と一緒に用意する。また、新たな素材にも目が向くように幼児にとって使いやすいものを提示する。両面テープ、ラピーテープなど、使い方にコツを要するものについては使い方を見守り、失敗も含めて新しいものに出合える楽しさを感じられるようにする。
- ・ 絵の具、手形のスタンプなど、描画材料によっては接着までに時間を要するので、製作の時間差を考慮しながら、他の材料に気付くようにして、多様な取組が経験できるようにする。
- ・ 製作途中での状態をみんなで見合っ、うろこの必要性に気付いて作り足す中で、友達の表現を見て同じような方法でやってみようとする姿を認め、いろいろな表現を楽しめるようにする。
- ・ 個々のうろこの作品を見合いながら、工夫した点、苦心した点などについて振り返り、うろこがたくさん集まったことでクラスの大きなこいのぼりができ上がったことをみんなで喜び合えるようにする。



## 本事例と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

① 健康な心と体	・ クラス全体の活動こいのぼり製作に意欲的に参加し、最後まで諦めずに取り組む。
② 自立心	・ 自分で決めたデザインに必要な素材や用具を選び製作する。 ・ 製作が終わった幼児は次に何をすべきか考えて行動する。
③ 協同性	・ ペアの友達と思いを共有してうろこのアイデアを考え発表する。
④ 道徳性・規範意識の芽生え	・ 用具を丁寧に扱ったり、片付けたりする。 ・ 絵具で汚れた容器や、筆を洗ったり床を拭いたりする。
⑤ 社会生活との関わり	・ 日本の風習であるこいのぼりの意味を知り、自分たちのこいのぼりづくりに反映する。
⑥ 思考力の芽生え	・ どんな模様にしたらよいか思いを巡らす。 ・ 様々な素材を工夫して作品にする。
⑦ 自然との関わり・生命尊重	・ 仕上がった大きなこいのぼりが青い空に泳ぐ姿を想像する。 ・ こいのぼりの意味を考え元気に過ごすことの大切さを知る。
⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	・ うろこの形を考え工夫して切る。 ・ 自分の作ったうろこの数を数える。
⑨ 言葉による伝え合い	・ ペアの友達の意見を聞いたり、自分のアイデアを伝えたりして共有する。
⑩ 豊かな感性と表現	・ みんなで協力してでき上がったこいのぼりを共に喜ぶ。 ・ 年下のクラスにも見せてあげてを提案する。

### 小学校への接続を意識した保育で大切にしていること

#### 〈生活〉

- ・ 生活や遊びの決まりを確認し、話し合って決めたことなどは絵や図、文字などで分かりやすく知らせるようにする。
- ・ 使用した遊具や用具は、片付け方の表示をして分かりやすく知らせ、自分たちで片付けたり整理したりできるようにする。

#### 〈人とのかかわり〉


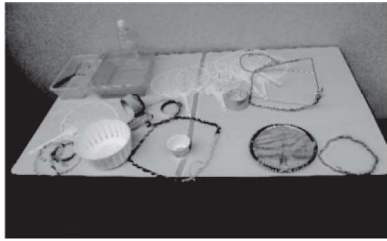
- ・ 自分の思いを伝えたり、相手の思いを感じ取れるように、相手の表情や動きに気付かせ、思いを言葉にして伝えたり、思いを聞くように援助したりしていく。
- ・ 自分なりに考えを言葉や動きで出しながら、友達と一緒に取り組んでいく機会を意図的に作るようにしていく。

#### 〈学び〉

- ・ 自分なりの目的に向けて遊びのイメージが広がるように、考えたり、工夫したり、試したり、挑戦したりできるように遊具や材料、時間を十分に保障する。
- ・ 自分たちの力でできたという満足感や達成感もてるような素材、材料を準備する。

### 事例3

5歳児	8月上旬	すごい！どうしてだろう！もう1回やってみよう！ ～自分なりに考えて試したり工夫したりしながら遊ぶ～
活動選択の理由	6月頃より、好きな遊びの中で色水遊びや泡遊びを楽しんできた。木の実をすりつぶしたり、石鹸を削って泡を作ったりする中で、「なぜだろう」「もう1回やってみよう」などと、自分なりに考え何度も試して遊んでいる。繰り返し試して遊ぶ中で、様々なことに気付き、保育者や友達に伝えたり、気付きを生かして再び試したりする姿が見られた。しゃぼん玉遊びを通して「すごいな」「どうしてだろう」という驚きや不思議さを感じ、新しい気付きに出合っしてほしいと考えた。	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>物の性質や形などに興味・関心をもち、繰り返し試したり工夫したりしながら遊ぶことを楽しむ。</li> <li>目的をもって試したり考えたりして遊ぶ中で、自分の気付きを伝えたり、友達の考えや気付きを聞いたりしながら取り組む面白さを感じる。</li> </ul>	
<p>【幼保小の共通の視点：主主体的な活動 協同(協働)的な活動 言語活動】</p> <p>主・不思議に思ったことに対して自ら試したり、工夫したりしながら取り組む。</p> <p>協・同じ場を共有する友達に用具を貸したり、やり方を教えたりしてしゃぼん玉の遊びを楽しむ。</p> <p>言・気付いたこと、考えたことを周囲の友達や全体の場で伝える。</p>		

活動の流れ・幼児の姿	○保育者の指導・援助    ★環境の構成
<p>【前日までの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分で作ったモールの輪や用具(うちわの骨組み、ハンガーなど)を使用して、しゃぼん玉を作って遊ぶ。</li> </ul> <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登園すると、しゃぼん玉を作れそうな生活の中にある身近な道具を自分なりに予想して集める(カゴ、網、ざる、芯、キャップ、リレーバトン)。</li> <li>いろいろな用具や素材を使ってしゃぼん玉を作ろうと試す。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>繰り返し試す中で、自分の気付きや発見を言葉にする。また、手や体の動かし方を工夫したり、友達のやり方を見たり、友達にやり方を聞いたりして、しゃぼん玉を作る。</li> <li>せっけん液や道具の性質などに気付き、大きく膨らむコツについて、自分なりに液の浸し方や道具の扱い方を繰り返し試す。</li> </ul>	<p>★いろいろな素材や用具で試すことをねらいとしたため、成功体験につながるように、あえて市販のしゃぼん玉液を使用する。</p> <p>★安全面に配慮して、しゃぼん玉を飛ばす場所と用具を作る場所を区切り、足を拭く場や手を洗うための用意をする。また、幼児の動きを予測し、十分な場所を確保する。</p> <p>★自分たちでいろいろと試したり、工夫したりできるように、前日に幼児の話から出た用具や素材を用意しておく(ポイ、うちわ、牛乳パック、モール、針金、毛糸、テープの芯)。</p> <p>★自分なりに予想して、身近な道具で試すことができるように、幼児が気付く場所に用具や素材をさりげなく置いておいたり、子供の気付きに応じて提示できるように、用意したりしておく。</p> <p>○しゃぼん玉ができた喜びに共感し、幼児の考えや気付きを受け止めたり、繰り返し挑戦する姿を認めたりする。幼児の動きや工夫しているところを言語化する。</p> <div style="text-align: center;">  </div>



- ・途中で割れても、大きいしゃぼん玉を作ろうと何度も挑戦する。
- ・友達と息を合わせて大きいしゃぼん玉を作ろうとする。



- ・モールを巻くことでしゃぼん玉ができた経験から、針金やハンガーの周りにモールを巻こうとする。
- ・モールの巻き方が分からない幼児は友達に教えてもらったり、友達が取り組む姿を見てまねをしたりする。



- ・保育者と一緒に片付けをする。
- ・楽しかったこと、工夫したこと、難しかったことなどを発表する。

○必要に応じて援助を行いながら、幼児自身が考えている姿を見守ったり、試したことや工夫したことを認めたり、気づきに共感したりする。

○幼児の気づきや発見に共感し、使う道具や手の動きなどによって、しゃぼん玉のでき方や大きさ、量が違うことに気付かせる。

○幼児が思い付いたことや工夫している点、こだわっている点を言葉にして共感するとともに、保育者が言語化することで、友達の頑張りや工夫に気付けるようにする。

★活動が進む中で、足場が濡れて滑りやすくなるため、しゃぼん液の滑りを拭うようにして、幼児が安全に活動できるようにする。

○なかなかしゃぼん玉ができない幼児には、自分なりに考えて取り組む姿を認めながら、できている幼児の姿に気付かせたり、うまくいく方法を一緒に考えたりして、幼児に応じて「できた」喜びを味わえるように援助する。

○モールの巻き方や道具の扱い方をすぐに教えるのではなく、友達の取組を見て真似したり、友達に聞いたりするなど、友達同士で相互に刺激を受けられるようにする。

○振り返りでは、楽しかったこと、挑戦したこと、工夫したこと、難しかったことなど、個々の取組や友達との取組を学級全体で共有し、今日の遊びの達成感や明日への期待につなげる。

### その後の活動

- ・活動後、学級で楽しかった遊びを共有したことで、しゃぼん玉遊びに興味をもち、次の日に自分で用具を選んで、しゃぼん玉作りに挑戦する幼児が増えた。
- ・前日にじっくりと取り組んだ幼児も、「これでもしゃぼん玉ができるかもしれない！」と新しい用具を探し、気付いたことを言葉にしながら、繰り返し試す姿が見られた。
- ・ハンガーを使って大きなしゃぼん玉を作ることに挑戦していた幼児は、次の日も繰り返し取り組んでいた。何度も挑戦するうちに、手や体の動かし方のコツを理解したことで、何度も大きなしゃぼん玉が作れるようになり、うれしそうに保育者や友達に見せる姿があった。その姿に刺激され、他の幼児が再挑戦する姿も見られた。

- 生活：生活に必要なことに気付き、自分たちでしていこうとする。
- 人とのかかわり：自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いや考えを受け止めようとしたりする。  
クラスのみんなでする遊びを楽しむ中で自分の力を発揮しようとする。
- 学び：目的をもって遊びを考えたり工夫したりして、自分なりにやり遂げた満足感を味わう。

## 1 自分で考えたことを実現しようと思えるために

### 自分なりに考えて「こうしてみたい」と思ったことを実現するための工夫

- ・ 幼児が工夫したり試したりできるように、保育者が事前に安全面を含めて、用具や材料などの特性や扱い方、保育への取り入れ方を明確にしておく。
- ・ しゃぼん玉がどうするとうまくできるのか、自分たちで気付くことができるように、しゃぼん玉ができる特性に気付くことができるように個に応じた問い掛けを行う。
- ・ 用具や素材を保育者が全て用意するのではなく、幼児が自分で考えて選んだり、試したりできるようにさりげなく置いておく。
- ・ しゃぼん玉ができる物だけでなく、できない物もあることで、「できる物とできない物」の違いが分かり、しゃぼん玉ができる条件に考えを巡らせてしゃぼん玉への願いを実現できるようにする。
- ・ 幼児の発見や気付きに共感し、やってみようとする気持ちを支える。また、幼児の気付きを予測して、小さいものから大きいものまで幼児が思い付いた用具や素材を使用してしゃぼん玉作りができるように、様々な大きさの容器を用意しておいたり、実際に試すことができる場を確保したりする。
- ・ 自分もやってみたいと思ったとき、すぐに試すことができるように、一人一人が道具を選んだり、試して用具を変えたりすることができるように種類や数を用意する。

## 2 友達の取組に刺激を受けて、自分もやってみようと思えるために

### 自分の考えを伝えたり、相手の思いを受け入れたりしながら、自分の取組に生かせるようにする工夫

- ・ 友達が楽しそうに遊ぶ姿に刺激を受け、自分も挑戦しようと思えるように、たらいを置く位置や用具の置き場を工夫し、周りの幼児の姿が見やすい環境を作る。
- ・ 幼児の発見や気付きを受け止め共感していく。自分のしていることを言葉にすることが難しい幼児には、幼児が無意識に行っていることを自覚していけるように、保育者が幼児の行動を言語化したり、問い掛けたりして、共感的に関わる。
- ・ 保育者が「○○ちゃんも大きいのを作っていたね。」など、友達のしていることに気付かせる言葉掛けをし、一人一人の挑戦していることや試していること、工夫していることを言葉に出していくことで周りに伝わるようにする。
- ・ 自分と異なる考えがあることに気付いて友達の動きをまねたり、友達から刺激を受けて自分なりに考えて試したりする姿を言葉にして認める。また、幼児が新たに考えたことを実現できるように、さらに素材を加えるなどの援助をする。



## 本事例と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

① 健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期待をもって、しゃぼん玉遊びに楽しく取り組む。</li> <li>・片付けの時間までの見通しをもちながら遊ぶ。</li> </ul>
② 自立心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的をもってしゃぼん玉遊びに取り組む。</li> <li>・用具を自分たちで準備したり、片付けたりする。</li> <li>・難しくても諦めずに挑戦しようとする。</li> </ul>
③ 協同性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに気付いたことを伝え合う。</li> <li>・友達の良い面や頑張っている姿に目を向ける。</li> <li>・友達と協力して大きなしゃぼん玉を作る。</li> </ul>
④ 道徳性・規範意識の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きまりを守り、安全にしゃぼん玉遊びをする。</li> <li>・友達と遊具や材料を共有して遊ぶ。</li> <li>・周りの友達や保育者を見て、気付いて手伝おうとする。</li> </ul>
⑤ 社会生活との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家でしゃぼん玉を作った経験や本で見たことを生かして遊ぶ。</li> </ul>
⑥ 思考力の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しゃぼん玉遊びを楽しむ中で、物の性質や仕組みに気付く。</li> <li>・友達の姿を見たり、考えを聞いたりして、自分と異なる考えがあることに気付き、新しい考えを生み出す。</li> <li>・繰り返し考えたり工夫したりしながら、しゃぼん玉を作る。</li> </ul>
⑦ 自然との関わり・生命尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しゃぼん玉が空に上がっていく様子やしゃぼん玉の中に景色などが映りこむ様などに、不思議さを感じる。</li> </ul>
⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な素材に触れ、その性質や数量、形などに興味・関心をもって、自分なりに工夫したり考えたりする。</li> </ul>
⑨ 言葉による伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思ったことや気付いたことを言葉にして伝えたり、相手の考えや気付きを受け入れたりする。</li> </ul>
⑩ 豊かな感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しゃぼん玉ができた喜びを感じ、感じたことや考えたことを表現する。</li> </ul>

### 小学校への接続を意識した保育で大切にしていること

#### 〈生活〉

- ・活動の内容を計画的に掲示し、幼児が見通しをもって取り組めるようにする。
- ・やりたいことを実現するために、自分たちで必要なものを用意する。
- ・片付けの時間に見通しをもって、自分たちで使った場や用具などの後始末を最後まで行う。

#### 〈人とのかかわり〉



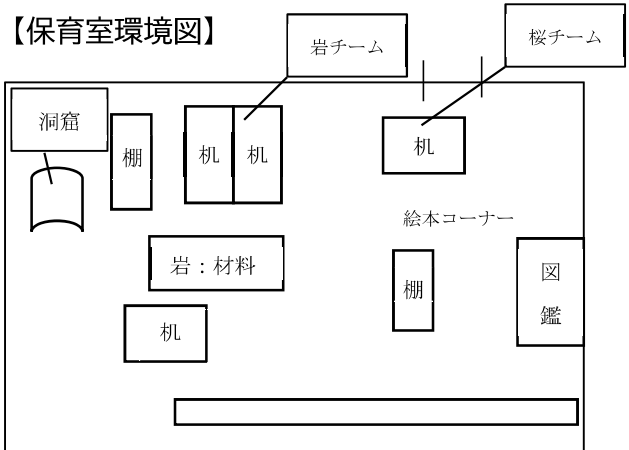
- ・自分の考えを相手に伝えたり、友達の考えを聞いたりする中で、友達の発見や気付きを取り入れられるようにするとともに、友達同士で認め合えるようにしていく。
- ・友達と協力し合って遊ぶ楽しさや友達と一緒に味わえる充実感を感じられるようにする。
- ・保育の振り返りでは、自分のしたい遊びを楽しむ中で、楽しかったところや頑張ったところ、難しかったところを伝え合う場を作り、友達と認め合うクラス集団をつくっていく。

#### 〈学び〉

- ・様々な素材や用具に触れ、その性質や形などに興味・関心をもつとともに、自分なりに考えたり、工夫したり、試したりする面白さを感じられるようにする。
- ・目的に向けて自分なりに考えたり、工夫したり、試したり、挑戦したりできるように遊具や材料、時間を十分に保障する。

## 事例4

5歳児	9月中旬	みんなでジャングルをつくろう ～グループでイメージを伝えながら活動を進める～
活動選択の理由	7月頃よりキャンプごっこを楽しむ姿が見られていた。幼児同士の言葉のやりとりも活発になり、キャンプの場について想像を膨らませていく中で、「ジャングル」のイメージが出てきた。ジャングルを作るという共通の目的をもって、《洞窟の岩》とクラス名と同じ木、《桜の木》を作るようになった。	
ねらい	・友達と共通の目的をもち、感じたことや考えたことを言葉で伝え、受け止め合いながらイメージを膨らませ、一緒に作り上げることを楽しむ。	
<p>【幼保小の共通の視点：<span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">主</span>主体的な活動 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">協</span>協同(協働)的な活動 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">言</span>言語活動】</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">主</span>・経験したことを基にして、イメージを広げクラス全体で「ジャングル」を作る。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">協</span>・グループの目的が分かって、友達と一緒に役割に応じた活動を進める。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">言</span>・「ジャングル」に対する自分のイメージを伝えたり、友達のイメージを聞いたりする。</p>		

活動の流れ・幼児の姿	○保育者の指導・援助    ★環境の構成
<p>○クラスで集まる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の話を聞く。</li> <li>・ジャングルの中にあるもののイメージを友達に伝えたり聞いたりする。</li> </ul>  <p>○制作したいものを選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作るものによって、グループに分かれる。</li> <li>・作るものについて図鑑を見て調べる。</li> <li>・花の形を調べる。</li> <li>・桜の花びらには決まった数があることに気付く。</li> </ul>  <p>・岩の色のイメージを話し合う。</p> 	<p>○前日に話し合ったことを踏まえながら、今日の活動の内容を明確にする。</p> <p>○幼児のイメージしていたことを絵や文字などで視覚的に表すようにすることで、理解を深め、活動への期待感をもてるようにする。</p> <p>○グループで取り組めるように、作りたい物の種類を調整し、活動を方向付ける。</p> <p>★幼児のアイデアに合わせて素材を準備する。</p> <p>桜の花：不織布、絵の具(事前に溶いておく)、布、ボンド</p> <p>岩：古紙、絵の具(事前に溶いておく)、ガムテープ、新聞紙</p> <p>★グループ内で話合いや調べものができるように、テーブルの周りに集まり、落ち着いて活動できるようにする。</p> <p>○話合いが円滑に進んでいない場合には保育者が意見を整理したり、出たアイデアを分かりやすく伝えたりする。</p> <p>【保育室環境図】</p> 



- ・混色の仕方について知っていることを伝え、絵の具の混色を試す。
- ・布を用いて桜の花を作り、絵の具で色を付ける。



- ・岩を一人一個完成させ、もう一個作るために友達に応援を求める。
- ・友達の言葉掛けに応じて、手伝う。



#### ○終わりの集まり

- ・互いのグループの制作の様子について、出来上がったものを見合ったり、楽しかったことを話したりする。

○一人が発した言葉を取り上げ、グループで共有できるようにする。

○幼児同士の話し合いにおいて意見の食い違いが起こった際には、それぞれの考えの違いを明確にするとともに、さらに考えを表せるようにして、幼児同士の話し合いを深めていく。

★テーブルの配置を考慮し、グループが相互に活動の様子が見えるような間隔とすることで、他のグループの刺激が伝わるようにする。

★製作した岩の置き場を洞窟の近くに設定し、出来上がったときのイメージが膨らむようにする。

○手伝いを必要としている幼児がいる際には「Aさんが困っているみたい。」と具体的な情報を伝える。

○「長い針が3になったらお話をするよ。」と時刻を設定し、終わりの集まりをすることを伝える。

○製作活動を振り返り、楽しかったこと、頑張ったことなど表しやすいように、個々の思いや気付きを受け止めながら、話し合いを進める。

○製作できたことを喜び合い、さらにジャングルらしくするために必要なものについて、イメージを伝え合えるようにして、次回への期待を高める。

### その後の活動

- ・ジャングルのイメージを広げるために絵本『エルマーのぼうけん』を読んだ。登場した動物を作りたいという幼児が見られ、ジャングルにいる動物について話し合い、サル、ゴリラ、ナマケモノ、ライオンなど、身近な材料を用いて動物を作り、ジャングルの中に置くようにした。
- ・さらに、SDGsに関する絵本『せいかつからまなぶ！3・4・5さいのなぜなにSDGs』に触れることで、日本とは異なるジャングルの自然事象や海のウミガメの生態等にも興味をもつ様子が見られた。特に、ウミガメが捨てられたごみ袋を食べようとする写真を見て驚き、森の木が切られて動物が困っていることなどを、伝え合ったりしていた。
- ・「ジャングル」とはどのようなところか、自分たちが生活している場とは大きく異なる環境であることを知る過程でイメージを共有することで、ジャングルの気候、動植物などへの興味をもって、新しい事柄に出会うことを楽しんでいる姿が多く見られるようになった。

生活：生活に必要なことに気付き、自分たちでしていこうとする。  
人とのかかわり：自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いや考えを受け止めようとしたりする。  
学 び：目的をもって遊びを考えたり工夫したりして、自分なりにやり遂げた満足感を味わう。

## 1 グループの活動を楽しめるように

### グループの友達と活動を楽しんで取り組めるようにする工夫

- ・ クラスでのキャンプごっこを単発で終わらせることなく、さらに次にどのようなものがあったらよいか、話題にすることで、それまでのごっこ遊びを価値付けることになる。楽しかった思いを共有しながら次の活動(ジャングルづくり)への期待感を高めていく。クラスで共有したイメージに沿って、必要なものを出し合いながら、活動の意欲を高められるように活動の内容を明確にする。作るものについてのイメージを出し合うときは、言葉だけでなく、絵や文字などを用いて分かりやすくしながら、楽しく話し合えるようにする。
- ・ 幼児が話しやすいように、各グループの人数を4人から5人程度になるようにして、すぐに話し合いがもてるようにテーブルの準備をしておく。さらに、図鑑やメモに使える紙を提示して、話し合いを支援する。
- ・ 互いのグループのしていることを知ることができるよう情報提供をしていくことで、別のグループの活動を知ることにつなげ、互いにとって刺激になるようにする。



## 2 視野を広げ、未知のことへの関心をもてるようになるために

### 様々なテーマについて関心をもち、クラスで共有する場をつくる工夫

- ・ 「ジャングル」や「洞窟」など、身近に見たり、聞いたりすることがほとんどない事柄について、絵本、写真、図鑑等で触れられる環境を室内に設定する。
- ・ 家庭においてメディアなどで触れたり、知ったりしたことが話題になったときは、丁寧に耳を傾ける。さらに、その話題をクラスで伝え合う場をもって、情報を共有する。未知の事柄に徐々に興味をもって、知りたいという好奇心が芽生える過程をしっかりと捉えて、幼児同士が言葉を交わし合い、身近な出来事や視野を広げていけるように働き掛ける。幼児がいろいろな場や機会を通して考えたり、感じたりしたことをクラスの話題として取り上げて、伝え合うことを楽しむようにする。
- ・ SDGs(持続可能な開発目標)の概念は、幼児教育において、幼児が身近な環境に興味や関心をもつことを大切にし、自らよりよい生活をつくっていこうとする意識を育んできた点で共通している。園生活の中で、幼児が身の回りの物、こと、人を大切にしていこうという心情や態度を身に付けられるように、日常的に様々な場面、挨拶、食事、片付け、人との関わり、飼育栽培活動等において、保育者が意識をもって指導を進めていく。



## 本事例と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

① 健康な心と体	・ 保育者や友達に受け入れられる安心感をもって活動に取り組む。
② 自立心	・ 製作活動で「もう一個作りたい。」と自分から作り始め、手助けが必要なときは「手伝ってほしい。」と伝える。
③ 協同性	・ 友達と一緒に共通の目標に向かって取り組む。グループでの取組の進み具合を分かって、次への見通しをもつ。
④ 道徳性・規範意識の芽生え	・ 共有の材料や友達の作品を大切に使う。 ・ 使ったものを元の場所に戻したり、ごみを片付けたりする。
⑤ 社会生活との関わり	・ 家庭で経験したことを友達に伝えたり、遊びの中で表現したりして楽しむ。他のグループの取組に関心をもつ。
⑥ 思考力の芽生え	・ 様々な素材を生かす中で、「これならどうだろう?」と考えながら取組みイメージを膨らませる。
⑦ 自然との関わり・生命尊重	・ ジングルはどのようなところなのか、何があるのかなどについて興味をもって調べる。
⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	・ 図鑑や絵本を見ながら桜の花びらは何枚あるのか、どのような形をしているのかなどについてよく観察をする。
⑨ 言葉による伝え合い	・ 自分の気付きや知っていることを話したり、友達の話を聞いたりする。
⑩ 豊かな感性と表現	・ 布、不織布、紙などの様々な素材を使って、自分なりの表現を行う。

5歳児Ⅱ期では、友達と関わる中で自分の思いや経験したことを話すだけでなく、興味をもって聞いたり、受け止めようとしたりする姿が見られるようになってくる。この事例のように遊びの中で友達の言葉に耳を傾けて手伝おうとする姿が見られるようになる。上記「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」からも培ってほしい具体的な姿が②、③、⑨に表れている。

### 小学校への接続を意識した保育で大切にしていること

#### 〈生活〉

- ・ それぞれが時間に見通しをもち、提示された時間に合わせて用意をし始めたり、片付けを始めたりできるように時計に気付くことができるような言葉掛けをしていく。
- ・ やっていいこと、よくないことを自分たちで考えられるように、集まりの時の話題に出し、全員で考えられるようにしている。

#### 〈人とのかかわり〉

- ・ できないことや分からないことがあっても、近くにいる友達に助けってもらったり、助けたりする姿を集まりの中で意識的に伝えることで、友達のよさに気付けるようにしていく。
- ・ 友達と一緒に目的を共有し、達成する喜びが感じられるようなきっかけづくりを行う。

#### 〈学 び〉

- ・ クラスの目的が分かって、そのテーマについて考えたり調べたりしやすいように環境を整える。
- ・ クラスの中で、絵本や物語に共通の興味が芽生えた際に、実際に手で触れたり、見に行ったりすることができるものは、本物に出合えるような体験につなげていく。